

平成28年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立紀北工業高等学校 校長名：井松友希 印

目指す学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の学習および特別教育活動等の適切な指導により個人の能力を充分伸長させ、勤労愛好と協同一致の精神を育成し、かつ、礼儀と責任を重んずる気風を養成する。 ・技術人として肝要な合理的、科学的、創造的精神を養い、規律を重んじ、質実剛健有能で誠実な産業人を育成する。
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 授業の充実・改善を行い、主体的な学習習慣と確かな学力の定着を図る。
	2 基本的生活習慣を確立させ、心身の成長と規範意識の向上に努める。
	3 工業高校として特色ある学校づくりを推進し、地域連携や広報の充実を図る。
	4 地域の企業等との連携を密にして産業を支える人材を育成する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方針の公表の方法
学校評議員等で取組を説明し、意見をいただくとともに、ホームページ等により評価結果等を公表する。さらに地域や保護者等に対して、分かりやすく、より広く公表できるように努める。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					学校関係者評価	
重点目標					平成29年3月6日 実施	
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善方針
1	生徒は、穏やかであり、授業は円滑に行われ、指導が少人数によるもの、引き出し、学的に、生徒の学習意欲を高めるための研鑽を積む必要がある。	Brush-upTime(基礎学習)がスムーズに実施されているか。また、その成果を確認・改善できているか。魅力ある授業と教員一人一人が意識できているか。	授業規律の定着 家庭学習習慣の定着 全授業を公開し、研究授業や協議の充実を図る 生徒による授業評価の効率的な活用	授業開始時の教科書・ノートの準備率95%以上 宿題の提出率95%以上 授業評価シートの有効活用と校外に向けた公開授業、研究授業を実施 生徒による授業評価を実施し、授業の改善・検証の会議を実施	授業規律定着については、教職員の意志統一を図り、指導を徹底した。その結果、生徒は真剣に授業に取り組む、教科書ノートの準備及び課題等の提出がきちんとできていた。Brush-up Time(基礎学習)は計画的に実施出来たが、大きな効果が得るには至らなかった。授業評価を活用した授業改善・検証は行ったり、公開授業等は一部に止まり、教員研修の充実という点では課題があった。	B 研究授業や公開授業等の回数を増やし、生徒の授業評価で検証する等、効果的な授業改善を行う必要がある。また、授業規律の定着を徹底し、より能率的な学習態勢を作る。Brush-upTimeの実施方法を改善し、基礎学力の定着に確実な成果を見せたい。
2	挨拶、身だしなみ等、生徒の規範意識や基本的生活習慣の育成に努める。組織的に指導していくことが重要である。	遅刻欠席を無くし、挨拶等が出来ているか。先生や仲間への気持や考えを伝える思いやりや行動ができていないか。	家庭連絡の徹底と生活習慣の確立 職員全員による挨拶と声かけの奨励、登校指導及び校内巡視	遅刻生徒数の前年比10%の減少 全職員からの積極的な声かけ100%実施、生徒指導件数を0に近づける	遅刻生徒数は少なくなり、日々の挨拶や声かけの指導の成果が表れている。また、いじめ防止や早期対応の徹底を図った。地域の方々から挨拶や乗車マナー等で評価をいただくことも多いが、より一層教職員全体での意思統一を図る必要がある。	B 家庭連絡等、教員個人個人では迅速かつ丁寧な対応を心掛け、おおむね達成できてきた。今後、職員全体での登校指導や校内巡視態勢を確立したい。また、全職員での声かけを徹底し、生徒一人一人の実態把握に努めたい。
3	実験・実習等を通して、得るものを深め、また安全対策や地域の魅力を発信するより地域を推進していく必要がある。	地域社会に貢献するための資質や能力の育成が期待されるか。進路希望が得られているか。事故や事件が起らない環境づくりが出来ているか。	ものづくりを中心とした教員研修の充実 地域企業技術者による講習 ホームページ等を活用した積極的な情報発信 広報活動の充実と中学校との情報交換の徹底 実習・実験前の安全教育、事故防止事前チェック	夏季研修等を利用した技術講習会や、事業所での研修への参加 地域企業技術者の招聘 一般出願者数の前年比10%の増加	専門科教員の技術研修等は積極的に取り組む事ができた。また、わかやま産業を支える人づくりプロジェクトにも積極的に参加し地域企業技術者の招聘も達成できた。実習等でも安全教育は徹底し、生徒にも意識の向上を図ることができた。ホームページ等を活用して、本校の活動内容や成果を積極的に発信することができた。	A 引き続き安全教育と技術向上を目指し取り組んでいきたい。少子化の影響で生徒数が減少しているなか、魅力ある学校作りと広報活動の充実とに取り組み、地域や中学校への情報発信を心掛け、地域に開かれた学校づくりや本校で学びたいという生徒の確保に努めていきたい。
4	望ましい勤労観・職業観や社会的性を育成し、生徒が主体的に自己の進路を選択できるよう、キャリア教育の充実が求められる。	自ら目標を設定して進路選択が出来ているか。また、職場や地域社会で様々な人々と仕事を必要とする基本的な力や身についているか。	個人面談・進路ガイダンスの実施 校友会や関係機関との連携を深める。「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」を積極的に推進する。 インターンシップの実施	就職内定率100%を確保 早期離職者数0 工場実習、職場見学の実施 国立大学進学者数の増大 「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」の推進。生徒、保護者、企業等と連携を深めながら計画的に実施	職場見学やインターンシップ等、計画的に実施し、キャリア教育の充実が繋がることができた。就職希望者については11月末に100%の内定者を確保することができた。進学面でも、希望する生徒個々に対応し、国立大学に合格するなど、それぞれの進路実現を果たした。	A 指定校求人から公開求人へ切り替える事業所が増え、女子の就職希望者も増加する中、女子の求人確保が課題となる。就職状況が良好な今、より一層の社会人基礎力を身につけた人材育成とミスマッチのない進路指導の実現を目指していきたい。

学校関係者からの意見・要望・評価等

生徒指導や進路指導、学校の取り組み等について高い評価をいただいた。また、学校教育目標や目指す生徒像をしっかりと掲げ、教職員一丸となって学校運営に携わってほしいという意見もいただいた。

○多くの生徒が自ら進んで挨拶をする場面に出席しても清々しい気持ちになった。また、卒業式にも出席させて頂き、卒業生は、もちろん、在校生の態度もとても良かったと感じた。これらは先生方が共通認識のもと一丸となって生徒指導に取り組んでおられる成果が表れていると感じる。

○先生方の指導がゆきとどいていて、感じがし、学校訪問時にはいつも生徒さん達に明るく見守っていただき、好感を持って見守ってくださいます。また、関係や地元企業との情報交換等、進路指導にも熱心に取り組んでおられ、今後も地元「ものづくり」産業を支える原動力となる人材を輩出して頂き、地域の発展に寄与して頂きたい。

○紀北工業ブランドという言葉は、生徒にとって誇りであり勇気と自信を与えてくれるものだと思います。地域にとっても紀北工業高校は誇りでもあり、その誇りが継続できるよう、先生方のご指導をお願いしたい。

○”時間や規則を守る”そうした当たり前のことをこれからも厳しく指導して頂きたい。また、毎朝、先生が校門に立って生徒が登校する所を見守ってくれているのはとても良い事だと思います。さらに部活等でも熱心に指導して頂いていることを感謝しています。また資格を取ったり実習を行ったり普通科に通う同級生と比べると社会人に早くなる準備をさせて頂いていると感じています。

○学校の取り組みについては普通科高校ではない専門的な取り組みがなされており素晴らしいと思っております。これからも新しい取り組みや設備の充実を期待したい。